

# 会食時の感染リスクを下げる4つのステップ

●問い合わせ 役場健康保険課 健康推進係(町子育て・健診センター内) ☎096(294)1075

飲酒を伴う懇親会や大人数での飲食、長時間の飲食などは、新型コロナウイルス感染症の感染リスクが高まる場合に該当しますが、一人一人の心掛けで感染リスクを下げることは可能です。年末年始は飲酒や会食の機会も増えますが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防止するためにも、次の対策にご理解・ご協力をお願いします。

## STEP 1 予約時にリスクを下げる!

- お店を予約する際に、感染防止対策を実施しているか確認しましょう。感染防止対策を実施しているお店は、ステッカーの掲示などで確認できます。
- 他の団体客との接触を減らすため、部屋を別にする、パーテーションで空間を分けるなどの対応が可能かお店と相談しましょう。
- 5人以上での会食の場合は、テーブルを分ける、席の配置を斜め向かいにする、席と席の間にアクリル板を設置するなどの対応が可能かお店と相談しましょう。



## STEP 3 会食中にリスクを下げる!

- 食事中でも会話をする際は、マスクを着用しましょう。食事の時間と会話の時間を分けるなどの工夫しましょう。



- 大声での会話や席の移動は控えましょう。
- 箸やコップの使いまわしはやめましょう。
- 深酒は控えましょう。アルコールを飲みすぎの人がいいたら、ソフトドリンクを勧めましょう。

## STEP 2 会食前にリスクを下げる!

- 発熱などの症状の有無を確認し、体調の悪い人は参加しないようにしましょう。
- 入店時に手指消毒を行い、マスクを着用したまま、すぐに着席しましょう。



## STEP 4 会食後にリスクを下げる!

- 帰宅直後の手洗いなどで、家庭内にウイルスを持ち込まないようにしましょう。
- 万が一、発熱などの症状が出た場合は、すぐにかかりつけ医などに電話相談の上、医療機関を受診しましょう。また、幹事などに連絡し、参加者と情報共有しましょう。

# おおづのしごと VOL.16

大阪町企業連絡協議会

## 株式会社 くまさんメディクス

ニーズを先取りした投資と完全品質で  
お客様の期待に応える

私たちくまさんメディクスは半導体製造装置の設計・製造・据付を中心に、産業機械の製作やメンテナンスを行っている会社です。大阪町、菊池市を中心にクリーンルームを備えた10拠点の工場で装置の製造をしています。

技術の進化に対応し、日常の活動の中で、社員一人一人がお客様の視点に立ち潜在的ニーズを感じながら、より良いものを目指して変革することが重要だと考えています。納期を遅らせることなく、完全品質の装置を出していくことが当社の使命です。



また、昨年12月には優れた中小企業に贈られるグッドカンパニー賞の優秀企業賞を受賞いたしました。今後、地域社会やお客様に喜ばれる企業を目指し、さらにチャレンジを続けていきます。



令和2年7月に  
操業開始した平川工場



半導体製造装置の  
組み立て作業

### 【企業概要】

- 所在地 菊池郡大阪町他
- 業種 製造業
- 従業員数 1,032人
- 事業内容 半導体製造装置の設計、製造、据付、メンテナンス
- 連絡先 ☎096(293)0319
- ホームページ <https://ksmedix.com/>

株式会社 くまさんメディクス 🔍検索



# 輝く人権

## 人権を考えるみんなのついでい

●問い合わせ  
役場人権推進課 人権推進係  
☎096(293)7920

町では、人権が尊重されるまちづくりや男女共同参画のまちづくりを目的に、毎年人権週間に合わせて「人権を考えるみんなのついでい」を大阪町女性会、大阪町人権・同和教育推進協議会と共同で開催しています。

今回は、昨年12月に町生涯学習センターで、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため参加者を限定して開催し、約130人の参加がありました。

### 男女共同参画フォトコンテスト表彰

「みんなで協力 家事・育児」をテーマに募集し、30点の応募がありました。町男女共同参画審議会による審査の結果、入賞作品に選ばれた8点のうち、ついでいでは最優秀賞の杉山正徳さん(陣内)、優秀賞の岩下貴則さん(美咲野)、伊藤綾さん(室)の表彰を行いました。入選作品は、町ホームページやおおづ図書館などに展示する予定です。

### 人権研修

日本赤十字社熊本県支部の蔵原健之さんを講師に招いて、「新型コロナウイルス感染症の現状と人権問題」をテーマに研修を行いました。

蔵原さんは、全国的に問題となっている「コロナ差別」に関連して、日本赤十字社の大規模災害時における対応や、コロナ禍で医療従事者などに対する差別が起こっていること、なぜ差別や偏見が生まれるのかについて、講話をされました。質疑応答の時間では、学校や介護施設などで、コロナ禍で苦しんでいる現状について質疑があり、蔵原さんが医療機関の立場からの意見を返していました。

参加者からは、「医療機関の職員が、直接差別を受けている実態が分かった」「私たち自身が正しい情報を選び、うわさや偏見で判断せず、行動していきたい」などの感想が聞かれました。



講話をされた蔵原健之さん



# きらめく男女

## 日本の男女共同参画は進んでいる? 遅れている?

●問い合わせ  
役場人権推進課 男女共同参画推進係  
☎096(293)7920

世界各国の男女間の格差を数値化したものに、ジェンダー・ギャップ指数があります。これは、世界経済フォーラム(WEF)が、毎年公表しており、経済、政治、教育、健康の4つの分野のデータから作成され、0が完全平等、1が完全平等を示しています。

2020年の日本の総合スコアは0.652、順位は153カ国中121位(前回は149カ国中110位)でした。特に政治分野(144位)、経済分野(115位)の男女格差が大きくなっています。

ジェンダーギャップ指数  
日本のスコア (2020年)

分野	スコア(順位)
経済	0.598(115位)
政治	0.049(144位)
教育	0.983(91位)
健康	0.979(40位)

## 女性の社会進出の状況は?

その理由として、政治分野では国会議員の女性比率の低さ、経済分野では管理職に占める女性の割合の低さが挙げられます。



内閣府が作成している令和元年度版男女共同参画白書によると、近年、女性の生産年齢人口の就業率は上昇を続け、働く女性は大きく増加したものの、他のOECD(経済協力開発機構)諸国と比較すると、35カ国中、男性は82.9%で3位に対して、女性は67.4%で16位となっています。また、管理的職業者に占める女性の割合は14.9%で、諸外国と比較して低い水準です。このように、日本では女性の社会進出があまり進んでおらず、女性の能力が社会で十分に活かされているとは言えない状況にあります。

年齢や性別にかかわらず誰もが個性と多様性を尊重され、家庭や地域、職場で能力を発揮し活躍できる「一億総活躍社会」の実現に向け、男女共同参画を推進していくことが大切です。